

三河の隣国 美濃国遠山莊 明知城

徳川家康側近 明知遠山利景城主

美濃国恵那郡遠山莊明智村
明知城（通称：白鷹城）



明知城主郭（左上）の東側斜面に設けられた横堀（中央）と畝状堅堀群（右下）

戦国時代末期の明知城主、**明知遠山利景**（天文9年、1540年生誕）の正室は、尾張国三河足助城主鈴木重直と松平於久の娘である。於久は、三河松平家当主で弟の松平清康（徳川家康の祖父）の養女となり重直に嫁ぐが、重直が松平氏から離反したことで、於久は岡崎城に戻されている。

また、松平清康の跡目を継いだ松平広忠に、刈谷城主水野忠政の娘於大（伝通院）の輿入れが決まり、於大は岡崎城で竹千代（後の**徳川家康**、天文11年、1542年生誕）を産むが、於大の兄、水野信元が駿河の今川義元に反し、尾張の織田信秀・信長親子に従うと、今川氏と主従関係の広忠は於大を離縁した。これにより、3歳の竹千代（後の徳川家康）は生母於大と離別し、6歳で今川氏の人質になるまで岡崎城に居た於久が養母している。

【裏面に関係図を記載しています】

どうする？ 遠山利景の選択

① 遠山利景は幼年、父景行の命により出家して飯高山萬昌寺で僧となった。その後、元龜3年（1572年）、父景行が武田信玄率いる武田軍との上村合戦で大敗して自刃、明知遠山氏は存亡の危機を迎えた。

このため一門親族協議の上、若年の一行の後見として利景を立て家の再興を図った。利景は還俗し、一行と共に織田信長、徳川家康に属して各地を転戦した。

② 天正10年（1582年）6月2日、織田信長が明智光秀により京都本能寺で殺された。

甲府に在番していた明知城主遠山一行の後見人で叔父の遠山利景は、本国明知に帰る途中、駿河に立ち寄り、三河三奉行のひとり本多作左衛門と出会い神君（徳川家康）に属することを約束した。

③ 天正11年（1583年）、美濃兼山城主森長可は、山崎の戦いで明智光秀に勝利した羽柴秀吉方に加担し東美濃に侵攻、土岐高山城などを次々に手中に収めた。

遠山利景は人質として一行の娘阿子姫を美濃兼山城に送っていたが、森氏に属することを拒み明知城を脱出して三河の徳川家康のもとに走った。阿子姫は殺され矢作川の河原に晒された。

④ 慶長5年（1600年）、関ヶ原の合戦（9月15日）で東美濃の諸大名の多くが西軍に属する中、遠山利景は苗木城主遠山友政、土岐氏庶流小里氏の小里光親らと東軍（徳川家康）に属した。

利景は家康の会津征伐（会津大名 上杉景勝征伐）に加わっていたが、家康の命により、関ヶ原の合戦の前哨戦として帰郷し、西軍に属した岩村城主田丸直昌の属城となっていた明知城を9月2日に攻略した。その功により江戸幕府成立後の慶長8年（1603年）、旧領6,530石余を安堵され交代寄合となった。



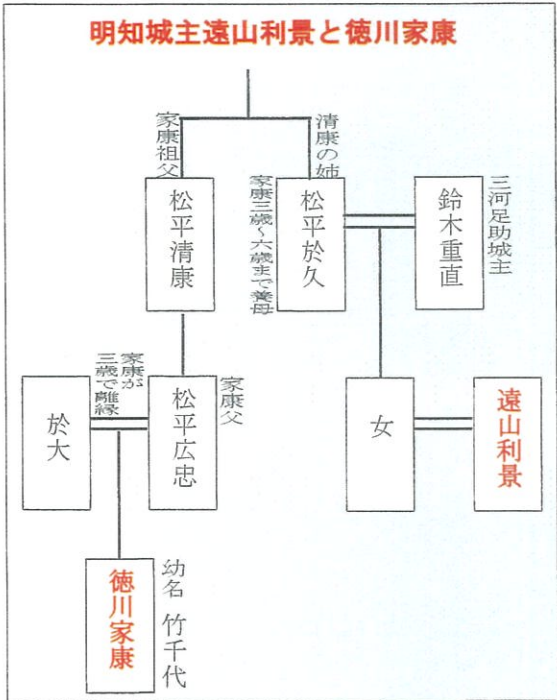
明知城の大手門を移築したと伝わる八王子神社の唐門



旗本明知遠山氏 と 徳川將軍家



- 慶長8年（1603年）2月、徳川家康は伏見城で征夷大將軍に任命され、江戸幕府が始まった。3月25日、家康は將軍宣下の拝賀の式を行い、遠山利景は道中の行列を奉行する重責を果たした。この時、大名旗本への叙爵（じょしゃく）が行われ、利景は従五位下民部少輔に叙爵、御奏者役に任命された。
- 慶長8年（1603年）、利景は朱印状を以って美濃国恵那郡32ヶ村5,400石余、土岐郡6ヶ村1,138石余の采邑（さいゆう・領地）を拝領、上総国中ノ村（現在の千葉県）の領地は返上になった。
- 慶長10年（1605年）、家康は將軍職を秀忠に譲り駿府城に退隠、有能な譜代大名旗本などを側近におき大御所政治を行った。利景も駿府城で家康に仕え、慶長15年及び17年に御前で猿樂を舞ったことが「徳川実記」に記されている。
- 慶長19年（1614年）5月20日、利景は明知遠山氏の存亡を賭け、戦場に明け暮れた波乱の生涯を明知城で終えた。享年74歳。
- 元和2年（1616年）4月17日、家康は駿府城において75歳で死去した。
- 旗本明知遠山氏2代方景の妹（於久の孫）は、旗本中山勘解由照守に嫁いだ。照守は2代將軍になった徳川秀忠の使番となり、後に3代將軍となる徳川家光の馬術指南も務めた。照守の死後、方景の妹は大奥に奉公し將軍秀忠の御内使として大奥での地位を得た。なお、2代方景から分家した景重の7代末裔に、北町奉行を務めた遠山金四郎景元がいる。（テレビ時代劇「遠山の金さん」の主人公として知られている。）
- 3代長景の正室は、徳川家康側室の阿茶局（雲光院）の姪（長寿院）である。阿茶局（雲光院）は大奥を統率し、大阪冬の陣で家康の代わりに徳川側として和議の交渉を行った。
- 寛永11年（1634年）7月、3代將軍となった徳川家光の上洛に際し、長景も京都に供奉した。
- 4代伊次の後室の涼光院は、初代紀州藩主徳川頼宣の側室となった円住院の姪である。涼光院は、本能寺の変の後、森長可に殺された遠山一行の娘阿子姫を憐れんで、南泉寺内に息心庵を建立した。
- 7代景遠の娘の於縁は、江戸城本丸大奥に奉公し老女岩岡局となる。9代景祥は岩岡局の甥で、御留守居となり老中の配下に属し、大奥の取り締まりや通行手形管理の職に就き、將軍不在時には江戸城を守る役割を担った。
- 徳川家定が13代將軍に就任後、岩岡局（7代景遠の娘の於縁）が家定付大奥御年寄になると、甥の11代安芸守景高は大御番頭に就任した。
- 安政7年（1860年）3月7日、江戸城本丸大奥御年寄の岩岡局が亡くなり、日暮里谷中臨濟宗妙心寺派南泉寺に埋葬されると、旗本明知遠山氏菩提寺（美濃国遠山莊明智村）には、桔梗紋の刻まれた岩岡局の観音像と丸に二引両紋が刻まれた涼光院（寛保2年（1742年）7月13日没）の観音像が建立された。
- 慶応3年（1867年）10月14日、15代將軍徳川慶喜が政権を天皇に返上する大政奉還を行った。およそ260年間、家康から15代続いた徳川政権が幕を閉じると、旗本明知遠山氏も徳川宗家直属の家臣として初代利景から12代景福まで仕えた大身旗本としての役職を終えた。



編集・発行：桔梗の会

岐阜県恵那市明智町

徳川家康側近 明知遠山利景城主

明知城(白鷹城) 案内図

宝治元年(1247 年)に明智遠山氏の始祖、景重が築城したとされ、天正2年(1574 年)に武田勝頼に攻められ落城した。

自然の地形を巧みに利用した山城で、多くの曲輪、堀切等が良好に残されている。

特徴的なのは、主要な曲輪の周囲に設けられた「畝状空堀群」と呼ばれる遺構である。これは斜面に平行するように設けられた堀(横堀)と、斜面に直行するように設けられた複数の堀(縦堀)を組み合わせたものであり、主郭を取り囲むように放射線状に配置されている。

自動車で大正村駐車場から約2km、4分
(明智駅前交差点～市場町交差点経由)

北方向

県道33号(瑞浪上矢作線)

至明智駅

★畝状空堀群と横堀から
見上げる本丸の絶壁は、
見逃せない！！

源頼朝の重臣
加藤太光員一族の墓

「登城口駐車場」
まで徒歩10分

「加藤太光員一族の墓」
まで徒歩10分

「主郭」まで
徒歩20分

「稲荷神社」
まで徒歩8分

「八王子神社」
まで徒歩5分

遠山家累代の墓所

八王子神社

明智光秀公建立柿本人麻呂社

代官所陣屋跡

「明智光秀公供養塔」
まで徒歩5分

大正村観光案内所・大正村浪漫亭から、
大正路地～大正村役場経由で大正ロマン館まで徒歩10分

給食センター

●白鷹城(明知城)
跡への進入道路
入口

登城口
駐車場

「お牧の方の墓所」
まで徒歩10分

中馬街道

「登城口駐車場」
まで徒歩10分

明智光秀公学問所
天神神社

「お牧の方の墓所」
まで徒歩15分

秋葉神社

旧三宅家
(明知遠山氏家老)

大正ロマン館

「明智光秀公学問所」まで
徒歩15分

山城歩きを楽しんでいただくため、明知城(白鷹城)跡とその周辺にある明智光秀公ゆかりの史跡を案内図にまとめました。
編集：桔梗の会

●→ は、丸印のある現在地から、
表示した目標地点までの所要時間